

盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。

「ヨハネによる福音書」 10章10節

経済大国は、人間の尊厳や環境への影響はいうまでもなく、背景というものを考慮しない投機や金融上の利益追求を優先させながら、現今の世界の構造を正当化し続けます。こうしたことから、環境の悪化と、人間とその倫理の退廃とが密接にかかわっていることが明らかにされます。

教皇フランシスコ 回勅『ラウダート・シ』 56

貧困の構造的原因の解決は喫緊の必要時です。[中略] 市場と金融投機の絶対的自律性を放棄し、格差を生む構造的原因に敢然と立ち向かうことで、貧しい人々の問題が抜本的に解決されないかぎり、世界が抱える問題は一つ解決されません。[中略] 人間一人ひとりの人格の尊厳と共通善の追求が、あらゆる経済政策を形成すべき関心事なのです。

教皇フランシスコ 使徒的勸告『福音の喜び』 202-203

## 経済的正義

聖コロンバン会はこの数十年、経済的不公正が神の国の構築の妨げであることをよく認識している。経済的貧困は人間の尊厳に対する暴力のかたちのひとつであり、不平等と必然的に結びついている。少数の人々の経済的繁栄は、多数の人々のより深刻な貧困問題なのである。このように、経済的安定ならびに良質生活必需品の入手手段が不公平に分配されていることは、特に先住民共同体や、女性とこどもたち、農民、低賃金労働者、移民の生活においてよくわかる。聖コロンバン会の規約では、「われわれは全世界と地域の貧困問題に対する道徳的挑戦を認識し、この認識によってわれわれの考え方をすべてを方向付けるものとする…それは貧しい者たちの現実問題への参与、不公正に対する奮闘を支持するものである。」われわれのアイデンティティの中心にあるこの認識が、聖コロンバン会の長年の宣教活動を形作ってきた。

今日の聖コロンバン会の活動では、不正なグローバル経済構造・政策がもたらす困窮、困難を証している。多くの人々、特に発展途上国に属する人々にとって、貧困ならびにグローバル経済からの排除は死活問題となっている。宣教活動をする者として、「あらゆる形の不正に抗する預言者の声となり、諸民族の変容とキリスト者的解放のため人々が協力するネットワークをつなぐものとなる」ようわれわれは召出されている。カトリック教会の社会教説綱要に述べるように、世界経済があらゆる被造物に対してのケアと尊重をもって、

貧しく弱い人々に仕えるべきであるとわれわれは信じる。「物資はあらゆる場所にゆきわたるべきという原則は、道徳的価値観から生じる経済構想を展開するための招きである。それは公平で連帯する世界をもたらすために、物資がどこから来て何を目的とするかを人々に見失わせない道徳的価値観である。」

## 聖コロンバン会の懸念

### グローバル貿易と投資政策

聖コロンバン会は投資政策など自由貿易協定を締結している多くの国々で生活、奉仕している。こうした協定はいかに少数の個人や政府、企業に偏って利益をもたらし、その一方で大多数の人々に生活のため苦勞させるままである。現在の経済モデルは、すべての被造物に対する連帯・正義・尊厳・尊重という福音的価値観を反映していない。貿易・投資協定はしばしば交渉過程での透明性に欠け、人的損害をもたらすことがあるので、その評価にあたっては貧困層及びあらゆる被造物にもたらされる影響を考慮しなければならない。こうした協定は多国籍企業利益のためであり、政府が労働者の権利擁護や環境保護に動くことを困難にする。その結果、このような貿易協定や政策はまともな雇用ならびに飲料水、適切な住宅、教育や基本的医療などの不可欠なサービスを入手困難にしてしまうため、人々の移住を駆立て、貧困状態を悪化させる。

### 負債と開発

数十年ものあいだ、発展途上国は国際開発金融機関〔I F I : 世界銀行など、国際開発のため複数国によって設立される金融機関〕によって負わされた不当で重荷となる債務、しばしば開発という名のもとに蓄積・維持させられている。こうした負債は腐敗した政府や軍事政権のもとで生じることが多かった。I F I を通して実施された民営化や緊縮の政策は経済的貧困層を損ね、富裕層に益をもたらす。搾取的な融資は個人と政府の両方のレベルで人々や国々をさらに貧困へと押しやり、教育、医療、家族の住居など人間としての基本的ニーズを用意できないままにしている。また近年のいわゆるハゲタカ・ファンド出現は重大な懸念である。この債務方式では民間投資会社に経済的に貧しい国々に対する返済条件を決定し、返済条件を満たさない政府を訴える力が与えられるからである。われわれは真の開発が『ラウダート・シ』に反映されるような、各人の充満とあらゆる地球の生物を尊重する形で到来するものと信じる。フランシスコ教皇はこの回勅の中で「過剰消費文化」について述べ、開発の新しい理解へと招いている。

しかし、生産と消費ペースの減少は別の形の進歩と開発を引き起こしことがあるという確信のうちにわれわれは成長する必要がある。天然資源の持続可能な利用を促進する取組みはお金の無駄遣いではなく、むしろ中期的に他の経済的恩恵を準備できる投資となる。より大きな見地からすれば、環境への影響を少なくした、

多様で革新的な生産形式が非常に有益になりうるということがわかるだろう。人間の創造力とその進歩の理想を抑え込むのではなく、その力をあたらしい道筋にむかわせる、種々の可能性に目を開くことが大切である。

### 貧困と移住

移住の権利は基本的人権のひとつで、人間が自分自身と家族の幸福を守り、もたらすためにある。聖コロンバン会は経済的に貧しく、世界から取り残された共同体に奉仕しているが、そのような共同体は社会状況と環境問題がからみあい、経済的安定と安全を求めて人々に故郷を離れさせ移住へかりたてる。食料不安、失業、低賃金、まともな雇用の不足が受け入れ国での雇用機会の見通しとあいまって、移住の強い動機となる。グローバル経済政策も深刻な不平等と抑圧的労働条件を引き起こし、故郷を捨てさせる原因となることがある。不正なグローバル経済システムが、いかに難民・移住者とその家族にとって暴力的な状況をもたらし、人身売買の犠牲者を生み出すかわれわれにはわかっている。

### 食糧と農業

食糧と食の主権—“食の主権”とは、みずからの食の方針を決める権利で、基本的人権のひとつである。しかし世界の貿易協定に農業を含めることで何億もの人々の生活様式が大幅に変更されてしまった。これは世界中の小規模農業者、それも特に発展途上国の農家に不利な影響をもたらした。農作業は世界の貧困層の多くにとって生活するための方法であるのに、農産物取引は市場を統制したり歪めることもある多国籍企業によって支配されている。大部分の農業分野は少数企業の手中にあり、貿易交渉や政策立案の際に小規模農家の意見が反映されることはほとんど、あるいはまったくない。そのため、食の主権、市場参入、まっとうな生計手段へのアクセス、農村地方開発に関する小規模農家の権利が弱められる。開発途上国の女性の三分の二以上は農業従事者であるため、不公平な貿易政策の影響を特に受ける。政策設定時に女性の重要度は無視されることが多い。

### 遺伝子組み換え生物と特許

多くの共同体や国々は遺伝子組み換え生物（GMOs）の影響を受けている。それは特に聖コロンバン会の懸念とする問題である。世界銀行などの国際開発金融機関、ならびに米国のような国々は遺伝子組み換え作物の利用を奨励するが、そうした作物は企業が特許をもち、権利を有している。特許があることで農家は自家利用の種子を残しておくことができない。それは小規模農家は何百年も行っていたことだった。さらに農家は毎年新しい種子を購入するための借金を背負わされる。そうしなければ農業をやめるよう追い込まれる。遺伝子組み換え作物の多くは殺虫剤・除草剤をより多く使い、そうした農薬の中には癌や生殖能力に関わる問題や学習・発達障害と結び付けられるものもある。食物栽培に長年利用された土地が現在では GMO 基盤のバイオ燃料育成に利用されているが、それがエネルギー依

存の間違った解決策であるとわれわれは考える。バイオ燃料は健康的な食物生産の場を奪うだけでなく、ほとんどのバイオ燃料生産が従来の化石燃料と同量の温室効果ガスを放出するからである。

### 環境と文化の破壊

国際的な貿易と投資の政策はたいてい高収益企業に恩恵があるように計画され、貧しい共同体や自然界にもたらす結果や影響にはほとんど関心が払われない。例えば、採掘産業〔石炭・石油・金属など〕は自由貿易協定の主要な構成要素であるが、石油、ガス、鉱物の採取を通して地域社会や地球の生物に長期にわたる損害を負わせる。大規模鉱業や木材伐採業、農業関連企業は、生物多様性ならびに健全な生態系、農耕可能な先祖伝来の農地、文化的伝統をも損ねている。回勅『ラウダート・シ』（49）で教皇フランシスコが、「地球の叫びと貧しい者たちの叫びの双方が聞こえるように、環境についての議論において正義の問題を統合するよう」招いていることにわれわれは特に注意を払っている。

### 軍事力拡張の動き

軍事力は防衛と安全保障のため必要として推進され、大多数の国家は武力闘争を外交政策上、容認できる手段とみなしている。われわれは武力闘争を軍事的にも経済的にも危険な企てとみる。世界中で軍隊の駐留や存在が展開され、軍需産業を拡大することは、聖コロンバン会が育てようとする平和の文化を蝕むものである。何十億ドルもの金額を費やして、さらに致死的で精緻な殺傷と環境破壊の方法が研究開発され、宇宙空間への進出まで対象となる。経済的現実が軍事力拡張の文化に貢献、これを促進することになり、そこから多くの人々が直接的・間接的に利益を享受している。

### 聖コロンバン会の対応

#### 公平で公正な貿易取引

聖コロンバン会は経済的に貧しく、社会から取り残された地域社会に奉仕している。そのような地域社会の多くでは、有機農業や持続可能な開発実践による、従来と異なる生産方法を展開している。フィリピンでは聖コロンバン会が創立したいくつかのプロジェクトや組織があり、経済的正義のために活動している。PREDAフェアトレード・プロジェクトはその一例で、性的虐待や人身売買の被害を生き延びた女性や子どもたちにまっとうな仕事を用意している。その他のネグロス・ナイン・ファウンデーションとスバネン・クラブツ・プロジェクトでは、土着地域社会の文化的精神的伝統や慣習を尊重し、守るような意義ある仕事を用意する。

同様に聖コロンバン会は経済的に貧しい地域社会の教育とヘルスケアの必要性に取組み、

世界中で学校や診療所を創設してきた。多くの地域でこうした学校や診療所は異宗教間の対話や平和構築のための場所となっている。そこはすべての宗教の人々に開放されているからである。パキスタンで聖コロンバン会が創設した診療所と学校は、地域社会でイスラム教、キリスト教、ヒンズー教の信者家族たちがまとまるのに役立っている。そこで人々はそれまでの型にはまった考えや差別を打ち破るような関係を築いている。聖コロンバン会がペルーで設立した数か所の施設では、身体・知能・情緒面で特別なケアを要することもたちを世話し、もうひとつの施設はエイズの大人たちをケアする。ミャンマーでは聖コロンバン会シスターたちがエイズの人々のための在宅ケア・プログラムを開発し、遠隔地の人々が医療を受けるために滞在するホープ・センターを設立した。

### 教育および変革への提言活動

われわれは、暴力や経済・環境面での不公正の根本原因に取り組む統合的方策の一環として、構造変革のため働くことに尽力する。われわれにはその構造的原因がわかっており、軍事政策、自由貿易、環境の過剰消費が地域社会と自然界におよぼす体系的影響を理解している。世界中のコロンバン・ミッション・センターは経済、社会、環境での破壊的行為を生む政策を推進する諸国政府に立ち向かう活動に従事している。一例として、聖コロンバン会は長年にわたり、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）、TTIP（大西洋横断貿易投資パートナーシップ協定）として知られる国際的な自由貿易協定に反対の立場である。この二つの協定はともに交渉過程の透明性が欠け、企業利益に役立つ一方、人々や被造物全体の必要性や声を無視するからである。

### 負債の帳消し

聖コロンバン会は1980年代の負債帳消しへの世界的な呼びかけとともに始まった、経済的正義への初期の国際キャンペーンにおいて重要な役割を果たした。国際的なジュビリー〔ヨベルの年〕ネットワークの設立にも、発展途上国・先進国の双方で関わった。負債削減・帳消しの達成にはこれまで多くの進展があったが、諸国政府が数十年も前から不正な負債の返済に縛られていることが今日でもわかる。そこでわれわれは貧しい国々の負債をすべて帳消しにするよう呼びかけ続けている。同様に、事業民営化の義務付けや将来の不公平な借金を貧しい国々に負わせる国際開発金融機関の政策や実践を排斥している。

聖コロンバン会はまた、富裕な先進工業国の過剰消費によって、環境的負債が発展途上国で特に発生していることを認識する。発展途上国からは世界の天然資源の多くが採取されている。こうした富裕国は気候変動などの危機を緩和し、対策のための代価を支払ういっそう大きな責任がある。教皇フランシスコは回勅『ラウダート・シ』の中で環境的負債について述べている。「先進国はこの負債支払いを助けるべきで、それには再生不可能なエネルギーの消費を著しく制限すること、そして貧しい国々を支援して持続可能な開発の政策

と計画を維持させることである。」

### 社会的・環境的に責任ある投資

聖コロバン会は、貧しい者たちおよび搾取される地球へのコミットメントを本会のアイデンティティの基本部分とするので、連帯することと世話役の務めへとわれわれは召出されている。聖コロバン会の規約でこのコミットメントは以下のように表現される。

神の国があらゆる諸国民のいのちと文化に浸透するよう奮励努力しながら、われわれは普遍的な救いのメッセージを、証しと司牧、貧しい者たちとの連帯の立場からの対話を通して宣言する。

われわれはみずからの義務として、世界の資源の責任ある利用において他の人々と行動を共にすることを心に留める。われわれの生活様式、資金の利用と投資は社会正義の要求によって導かれる。

われわれは、慎重に見積られ、将来の負担に必要となる金額を超えた資金を蓄えようとはしない。われわれが重視するのはこの資金が社会的、環境的に責任ある方法で投資されるべきことである。われわれの投資方針は聖コロバン会の宣教カリスマの重要な側面であり、ビジネス社会でキリストの証しを提供するものである。本会の施策「社会的・環境的責任ある投資（SRI）」には、ポジティブ・インパクト [社会・環境面で肯定的影響ある] 投資、否定的・回避的（投資対象）選抜、企業提唱活動、投資の引き揚げ、ネットワーキングなどが実施項目に含まれる。

### ネットワーキングと動員活動

聖コロバン会は平和と関連問題に取り組む多くの国内・国際ネットワーク、パートナーシップに参加している。

オーストラリア・ニュージーランド  
ジュビリー・オーストラリア  
オーストラリア・フェアトレード・インベストメント・ネットワーク

イギリス

企業責任のためのエキュメニカル・カウンセル

EIRIS

ジュビリーUK

グローバル・ジャスタス・ナウ

ニュー・エコノミックス・ファウンデーション

パックス・クリスティUK

チリ

エコノミア・ソリダリア

アイルランド

デット・アンド・ディベロップメント・コオリション

米国

フェイス・エコノミー・エコロジー・アンド・トランスフォーメーション・  
ネットワーク

企業責任のためのインターフェイス・センター

貿易と投資のためのインターフェイス・ワーキング・グループ

ジュビリーUSA

コロンバン・センターおよび経済的公正の提唱、教育、プロジェクトのための組織

オーストラリア・ニュージーランド

コロンバン・ピース・エコロジー・アンド・ジャスタス・センター

チリ

チェントロ・ミシオネロ・サン・コロンバノ

ペルー

チェントロ・コロンバノ・デ・ミシオネロス

フィリピン

ネグロス・ナイン・ファウンダーション

PREDA

スバネン・クラフツ・プロジェクト

米国

コロンバン・センター・フォー・アドヴォカシー・アンド・アウトリーチ

詳細紹介先：

エイミー・ウーラム・エチェヴェリア

正義・平和・被造物保全のための国際コーディネーター

[amywe@columban.org](mailto:amywe@columban.org)

1.301.503.9222/skype awe0106